

シリーズ 「林業を読む」 (林業に関する書籍からいろんな情報をお伝えします)

相川高信氏著「先進国型林業の法則を探る」(日本林業成長のマネジメント)を読んで

～日本の林業再生のため、森林・林業をよくするためにはどうすればよいか～



#### 森の国日本

日本は森の国といわれる。昭和30年代までは強度な薪炭林利用で過伐状態。その後の高度成長期には奥山の天然林が伐採されその状態は持続可能な状態とはいえなかった。しかしその後人工林化したことで、現在は濃い緑色に覆われ森林の蓄積もかつてないほどに充実。

これらの人工林を利用するノウハウをこれから培っていくことが重要。

一方、世界的規模から見ると、森林は減少している。その原因は、農地利用のための伐採、途上国における過剰伐採などが原因。

日本は、世界のお手本として森林をコントロールし、森林の量と質を維持し、もしくは高めていくことが求められる。

その結果、地域の林業従事者・森林所有者・木材産業界や中山間地域が豊かになっていくもの。

#### 木材産業はすそ野の広い産業

人口減少期にはいるこれからの需要先は、これまでの個人住宅を主とした建築資材のみでなく、大規模建築、内装材、土木資材、製紙原料、バイオマスエネルギー利用等幅広い需要先の確保が重要。

EU では、木材産業というと林業、製材・合板・集成材・集積材等の製造、紙・パルプ製造、印刷業までが含まれる。

EU の調査では、全製造業の生産額、付加価値額、雇用者数の約10%を占めている。この定義には含まれないが、家具産業も重要な木材の需用者。前述と同じくらいの生産額になる。

また、木材産業の特色として「中山間地域の主要な経済主体・雇用創出主体で、地域の発展に重要な役割を持つ」ている。そして、その立地は資源のあるところに立地するべき。